

2020.9.10 第 6 回審議会資料

1. はじめに

少人数制学級については、現行の 1 クラス 40 人学級編成（小学校 1,2 年生は 35 人）よりも、きめ細やかな指導が可能となることから、当町でも独自の取組として「国語」及び「算数（数学）」の授業において非常勤講師を配置し、少人数指導を実施していますが、今般の新型コロナウイルス感染症の感染予防対策の観点から物理的な距離を確保するという点において、その必要性が注目されています。

諮問事項 2 「学校教育を取り巻く環境の変化を踏まえた今後のあり方」においても、学校教育に関する新たな制度や住民ニーズを踏まえて、町立小中学校の適正配当の取組を進めるうえでの留意点について意見を求められていることから、少人数制学級が現行計画へ与える影響について考えます。

2. 国における動向など

これまでも少人数教育については、そのメリットに鑑み、1 クラスあたりの児童生徒数や教職員定数の在り方も含め文部科学省において検討されてきましたが、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学びの機会が大きく制限されたことを受け、感染が収束したあとの新たな学びの在り方をめぐり、国において教育再生実行会議が開催され、少人数制学級の指導体制などについて検討が開始されたとの報道がなされています。

なお、近隣市町において、全ての学年で少人数制学級を採用している学校はありません。

3. 少人数制学級を編成した場合の学級数の変化

少人数制学級（30 人編成）を実施した場合の学級数の変化は以下のとおりです。

○小学校

【須賀小学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
②少人数制学級	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
差②－①	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転用可能教室数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

※今後、児童数は減少する見込みであり少人数制学級で編成しても学級数は変化しない。

※仮に今後の推計よりも児童数が増えた場合でも、転用可能な教室数が十分にあるためハード面の問題はなし。

【百間小学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
②少人数制学級	16	16	15	14	13	13	12	12	12	12	12
差②－①	4	4	3	2	1	1	0	0	0	0	0
転用可能教室数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

※今後の児童数の見込みによれば、少人数制学級で編成した場合、R7までは現在の学級数より多くなるが、普通教室への転用可能な教室数が確保できるためハード面での問題はない。また、R8以降の学級数は現在と同じになる見込み。

※仮に今後の推計よりも児童数が増えた場合でも、普通教室へ転用可能な教室数が十分にあるためハード面での問題はなし。

【東小学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	12	12	13	14	14	14	14	14	13	12	12
②少人数制学級	15	16	16	17	18	17	17	17	17	17	17
差②-①	3	4	3	3	4	3	3	3	4	5	5
転用可能教室数	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0

※今後の児童数の見込みを踏まえれば、学級数の増加は確実。また、普通教室へ転用可能な教室数が少ないため、校舎の増改築等のハード面での整備が必要

【笠原小学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	15	16	17	18	18	17	17	17	17	17	17
②少人数制学級	16	17	18	19	19	19	19	19	19	18	18
差②-①	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1
転用可能教室数	3	2	1	0	0	1	1	1	1	1	1

※今後の児童数の見込みを踏まえれば、学級数の増加は確実。また、転用可能な教室数が少ないため、状況によっては、校舎の増改築等のハード面での整備が必要

○中学校

【須賀中学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
②少人数制学級	7	8	7	7	6	6	6	6	6	6	6
差②-①	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
転用可能教室数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8

※今後の生徒数の見込みによれば、少人数制学級で編成した場合、R5までは現在の学級数より多くなるが、普通教室への転用可能な教室数が確保できるためハード面での問題はない。また、R6以降の学級数は現在と同じになる見込み。

※仮に今後の推計よりも生徒数が増えた場合でも、普通教室へ転用可能な教室数が十分にあるためハード面での問題はなし。

【百間中学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	9	9	10	11	12	12	12	12	13	14	14
②少人数制学級	12	12	13	14	15	15	15	16	17	18	18
差②-①	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4
転用可能教室数	8	8	7	6	5	5	5	5	4	3	3

※今後の児童数の見込みを踏まえれば、学級数の増加は確実。また、少人数制学級とした場合、R11以降は、転用可能な教室数が無くなるため、校舎の増改築等のハード面での整備が必要

【前原中学校】

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
①現在の学級	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6
②少人数制学級	8	7	8	8	9	8	8	7	7	6	6
差②-①	1	0	1	2	3	2	2	1	1	0	0
転用可能教室数	8	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9

※今後の生徒数の見込みによれば、少人数制学級で編成した場合、R10までは現在の学級数より多くなるが、普通教室への転用可能な教室数が確保できるためハード面での問題はない。

※仮に今後の推計よりも生徒数が増えた場合でも、転用可能な教室数が十分にあるためハード面の問題はなし。

4. 少人数制学級を実施するうえでの課題

コロナ禍において、少人数制学級が話題となっているのは、感染症予防の面で、必要な距離を確保することが可能となりリスクを軽減できることなどが挙げられます。

しかしながら、導入にあたっては、以下のとおり、大きな課題があります。

- ・少人数制学級導入に必要な教員数の確保（全学校） ※全国的な課題
- ・少人数制学級導入に必要な教室数の確保（東小学校）※町の課題（全国的な課題）

特に東小学校は、全学年2クラス並行を想定した学校であるため、少人数制学級を実施した場合、相当数の普通教室の不足が見込まれ、校舎の増改築が必要となります。他の学校と比較しても、校庭の規模が小さく、市街地の中の学校ということもあり、実際に建築するとなれば、場所の問題など多くの課題があります。

これらを踏まえた議論のポイントは、以下のとおりです。

【議論のポイント】

- ・少人数制学級の導入に向けた課題を踏まえ、現行計画に与える影響をどこまで考慮すべきか